

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

### 病害虫発生予察技術情報について

令和6年度病害虫発生予察技術情報第4号を発表したので送付します。

### 令和6年度病害虫発生予察技術情報第4号

## セグロウリミバエのまん延防止について

令和6年3月から沖縄県北部地域において、セグロウリミバエ(*Bactrocera tau*)のオスが数回にわたりトラップに誘殺されました。過去には平成10年及び平成15年に石垣市で、トラップへの誘殺が確認されました。今回の誘殺で沖縄県としては21年ぶり、沖縄本島では初確認となるため、令和6年6月6日に病害虫発生予察特殊報を发出了。また、誘殺されたトラップ周辺の果実調査を行った結果、家庭菜園のウリ科果実への寄生が確認されました。

本種は、寄主植物の移動規制がかかる害虫ではありませんが、アジア全域に広く分布し、多くの生果実を加害することが報告されており、まん延防止のため各関係機関と連携し対策を実施しているところです。

### 1 形態および生態

(1)成虫は体長約8～9mm。近縁種のウリミバエ(放飼不妊虫<sup>\*</sup>)やミスジミバエの様な翅の黒斑は無い(図1)。

※県内で確認されるウリミバエは、再侵入防止のため放飼している不妊虫であり、不妊虫は産卵しないため、農作物への被害はありません。

(2)幼虫は体長7.5～9.0mm。果実内で発育し、老熟すると果実から脱出して土中で蛹化する。

### 2 被害

(1)本種は、主にウリ科植物の生果実を加害することが知られている。主な寄主はウリ科(カボチャ、ヘチマ、ゴーヤー、トウガン、スイカ、メロン、キュウリ等)である。その他トウガラシ、トマト、グワバ、インゲン、パパイヤ等にも寄生することが報告されている(図2、3)。

(2)本種は、幼果から熟果まで広い生育段階の果実に産卵する。幼虫は果実内部を食害することにより、商品価値を著しく低下させる。果実の外観から寄生が確認できない場合もある。

### 3 防除対策

(1)摘果した果実や収穫残さ等は、丈夫なビニール袋に入れガムテープなどでしっかり密閉し、1か月程度放置してから処分する(図4)。

(2)栽培管理ができないほ場や、栽培期間を終えたほ場は可能な限り早く作物を処分する。

(3)庭のウリ科果実等については産卵を防ぐため袋がけを行う。また、不要な果実は早めに処分する。

(4)施設栽培では側面、天窗、出入口に目合い1.6mm以下の防虫ネットを設置し、出入口は二重カーテンにする。また、被覆ビニールおよびネット等の破損部分は直ちに補修する。

(5)ほ場周辺のウリ科等の野生寄主植物は除去する。

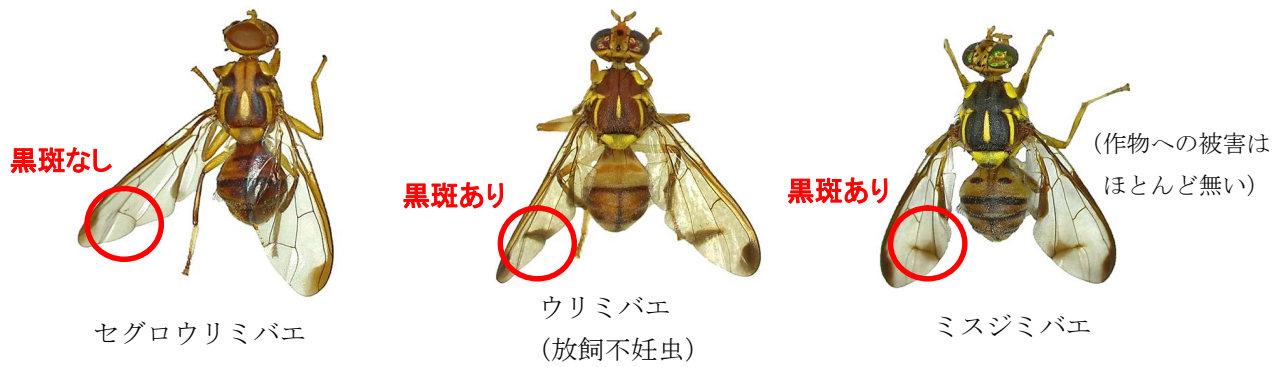


図1 他のミバエ類との比較



図2 セグロウリミバエ成虫(撮影地:台湾)



図3 ヘチマへの産卵(撮影地:台湾)

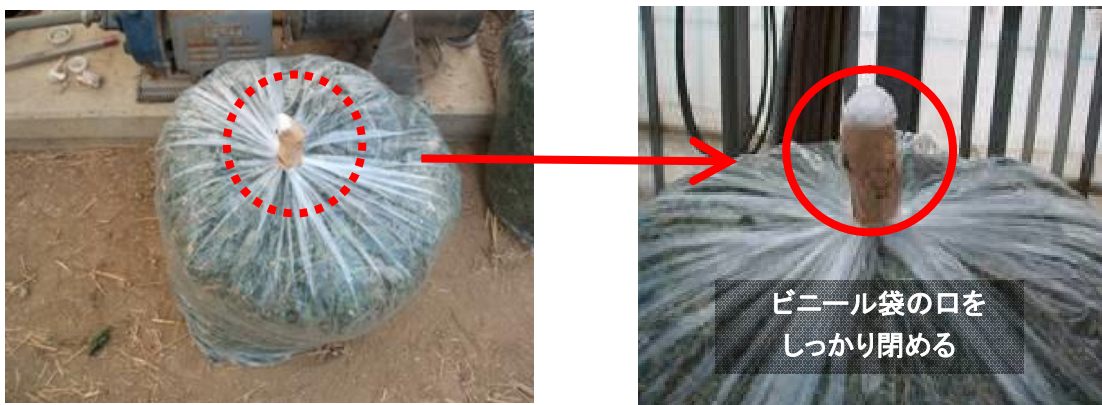


図4 ビニール袋による残さ物の密閉の仕方

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★  
 TEL: (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933  
 ホームページアドレス: <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

